

水環境の保全（閉鎖性水域） ～湖沼、海洋の底質改善～

閉鎖性水域における汽水湖や海域では、赤潮や青潮等が多発しています。このような汽水湖や海域の環境を改善するため、環境モニタリング等により汚染原因を解明する調査や赤潮・貧酸素水塊による被害防止対策等、総合的な水質改善に取り組んでいます。

底質環境のモニタリング調査の例を示します。



中立ブイ
淡水と塩水の間層に浮いています

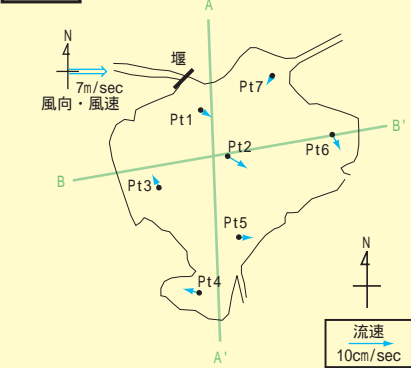
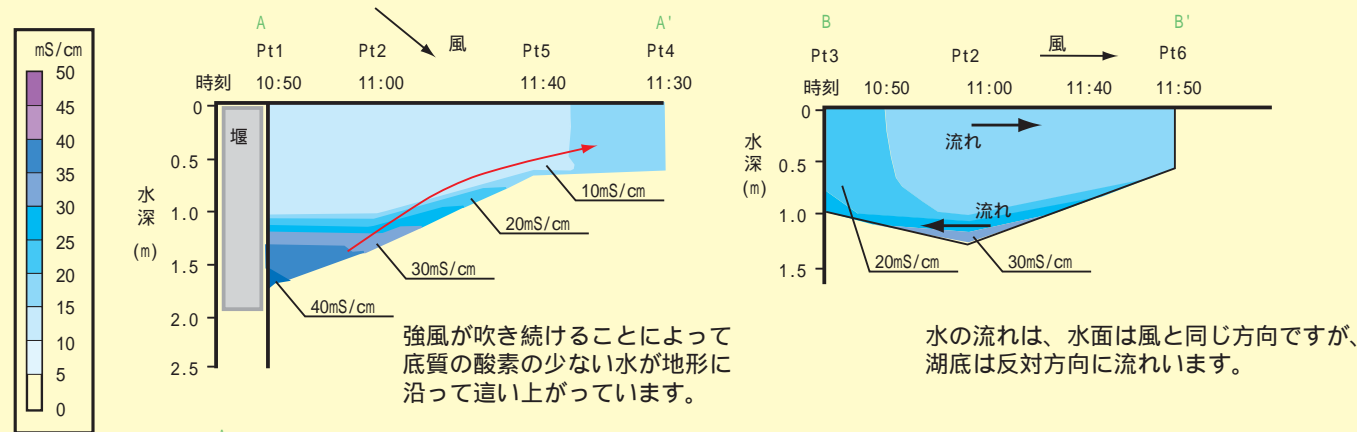


電磁流速計
水中に設置し、水の流速・流向を自動計測します

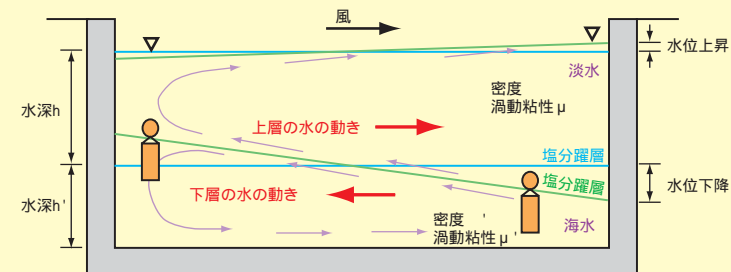


(右) エクマン・バージグラブサンプラ (採泥器)
(左) 多目的水質計
多目的水質計は水温、電導度、DO、p.H、濁度、クロロフィル、アンモニア、硝酸、塩素などを測定する機能がついています。

環境モニタリング調査の結果を分析してみました。



湖底の流れの状況を平面図で表現し水の循環を分析します。



2次元2層モデル解析
調査地をモデル化して解析・検討を行います。

自然環境保全調査、計画・設計 ～公園・河川環境整備事業～

寝太郎公園にて



水中と陸という性質の異なる環境をゆるやかにつなぐ「エコトーン(移行帯)」は、湿生植物(湿地に生育する植物)や抽水性植物(水から茎や葉を突き出すように生育する植物)等、その水辺空間の環境条件に合わせて様々な植物によって構成され、動物たちも集まってくる。エコトーンには様々な生態的機能が備わっており、植物によって覆われた水辺を少しでも多く復元・創出することが、これからの時代に必要とされています。



シュレーゲルアオガエル
Rhacophorus schlegelii



ゲンジボタル
Luciola cruciata



エナガ
Aegithalos caudatus



ヤマガラ
Parus varius



コゲラ
Dendrosopos kizuki

河川環境事業は、「自然との調和や共生」が求められています。事業計画に対する動植物への配慮、溪畔林や河畔林の保護、多自然型工法の検討ピオトープの計画・設計等を活用し、自然環境の創出と保全を検討します。